

Y. O. 社会システム学科・3年次

I. 留学レポート

① 協定留学を目指した理由（きっかけ、留学を考え始めた時期）

就職して働きだしたら半年も海外で過ごすのは難しいという事実から留学を真剣に考えるようになりました。小さい頃から海外の文化や生活に興味があったので、このまま機会を逃して行くことができなければ一生後悔するかもしれないと感じました。そこで、協定留学の1年前に、留学先の下見も兼ねてザールランド大学で1ヶ月間語学コースに参加しました。このときにドイツでなら暮らせそうだと確信し、ザールランド大学への協定留学に応募しようと決心しました。

② 留学を目指してから出願までのドイツ語学習方法（役に立った教材など）

CASE 上級コース、ラピートドイツ語コースに所属していました。両方とも履修して課題などそれなりにやっていましたが、私はそんなに熱心に勉強していた学生ではなかったと思います。ドイツでの語学コースから帰ってきた2回生の秋学期から真剣にドイツ語学習に取り組むようになりました。協定留学に出願するには B1 の試験を受験しなければならないので、試験の対策をしました。私の場合、とりあえず B1 の問題集を一通りやって、わからないところは先生に聞きました。

③ 留学決定から出発までの準備期間

・語学学習

ドイツ人の先生と週末に会ってカフェで会話の練習をしていました。たまにポッドキャストなどを利用してドイツ語を聞いていました。単語帳を使って毎日単語を覚えました。とにかくどんどん語彙を増やしたほうがいいと思います。知っている単語が多ければ多いほどわかることも多くなります。

・航空券

帰国日の変更ができる往復航空券をインターネットで購入しました。航空券を決める時、半年後の予定などまだ全くわからず帰国日を決める事ができなかったからです。片道で買うと結構高いと思います。

・ビザ

ドイツのビザは、現地の外国人局で申請します。提出書類は大学のオリエンテーションで丁寧に書き方を教えてくれます。なので、日本では必要な書類を揃えておくだけで大丈夫です。

・保険

ビザの申請の際、ドイツで認められる保険に加入している事が条件の1つになります。同志社の海外旅行保険を紹介されると思いますが、この保険が認められるかどうかは微妙

です。

・その他

時間があれば海外ドラマや洋画を見ておくといいと思います。ドイツの若者はアメリカのドラマや映画が好きです。ドイツ人と仲良くなるきっかけになったりします。実際に、私は海外ドラマや音楽の話でドイツ人と仲良くなる事ができました。

④現地到着後（空港からの移動手段・時間、オリエンテーション、諸手続きなど）

ザールランド大学にはピックアップサービスはありません。私はフランクフルト空港に到着し、その日はマインツに一泊しました。次の日に電車でザールブリュッケンへ向かいました。大学に着くと、国際交流センターで半年間住む家の鍵をもらいます。その後、大学から家へ一人で向かいました。

オリエンテーションに参加すると、授業が始まるまでにやることリストの書いた紙（銀行口座の開設、保険の加入、学籍登録等）をもらえます。それにそって進めていくと問題ないでしょう。

⑤語学研修期間

◆ 語学研修先の施設・環境について

ザールランド大学には付属の語学学校があり、交換留学生はそこでドイツ語を学ぶことになります。この語学学校（Studienkolleg）は、本来ドイツの大学に進学したい外国人のためのものです。最終的に彼らは DSH という試験を受けます。DSH に合格すると、外国人がドイツで大学進学する際に必要となる語学力の証明になります。

私はこの語学学校が合わないと感じたので、途中から街にある一般の語学学校（Volkshochschule）に通うことにしました。受講料も高くはないので通いやすいです。語学学校が合わないと感じたら、他の語学学校を検討してみた方がいいのかもしれませんが。将来的にドイツの大学で勉強したいという方は、Studienkolleg で DSH 合格を目指すといいでしょう。

◆ 授業内容、課題、試験

大きく分けて Deutschkurs I（初・中級コース）と Deutschkurs II（上級コース）の2つのコースがあります（学期末に DSH を受ける事ができるのは Deutschkurs II にいる人のみ）。一番初めのプレイスメントテストの結果でクラスを分け、基本的に半年間同じメンバーで学びます。1クラス20人程度、週4日（主に午前中）で授業は行われます。科目はリーディング、リスニング、コミュニケーション、文法の4つです。1学期間にリーディング、リスニング、文法の授業でそれぞれ3回試験があります。

⑥ 正規科目履修期間

◆ 大学の施設・環境について

キャンパス内には、銀行、スーパー、カフェ、散髪屋、本屋、食堂等があります。大学

のすぐ近くには **Landessportschule** というスポーツができる施設もあります。なので、不自由に感じることはないでしょう。学期の始まりには、キャンパス内でパーティーがあります。学期中には、毎週、大講義室で映画鑑賞会をやっています。

◆ 履修科目（決定までのプロセス、具体的に履修した科目名とその内容）

履修する科目は、基本的にインターネットで調べて登録します。ザールランド大学には、英語圏の大学のような細かく書かれたシラバスはありません。なので、履修科目を決めるのは難しいと思います。

当たり前ですが、日本でちょっとドイツ語をかじった程度ではドイツ語で開講される科目を受講するのは厳しいです。英語で開講される授業もあるのですが、英文学や言語学系統の授業がほとんどでした。私はドイツ語に自信がなかったので、確実に取れそうな日本についての授業を選びました。

Japanische Landeskunde（日本地域研究）

日本文化について学ぶ授業です。今学期のテーマは、日本のマンガ、アニメについてでした。話の内容だけでなく、マンガやアニメの制作方法なども扱います。マンガやアニメがどう発展していったのかを分析していきます。

◆ 授業、レポート、定期試験

この授業は、ゼミナール形式です。出席率、プレゼンテーション(2回)、レポートによって評価されます。日本人の先生が担当していますが、授業はすべてドイツ語で進みます。

⑦ クラブ、課外活動、ボランティア活動

クラブに入ったりはしませんでした。ときどき日本語の授業のお手伝いにいたり、日本に興味のあるドイツ人と日本人が交流できる会 (**Stammtisch**) に参加したりしました。**Stammtisch** は、月2回カフェで何か飲みながら話をするゆるい集まりです。これらを通して友達やタンデムパートナーを見つけることができます。

大学の国際交流センターで週末にみんなで旅行するイベントなどもあるので、参加してみるといいでしょう。

⑧ 現地での住まい（語学研修期間、正規科目履修期間）について

大学に紹介していただいたシェアハウス (WG) に住んでいました。ここには、一般のドイツ人も住んでいました。私の住まい (**Tilsiterstraße 9**) は3人用で、シェアメイトはメキシコ人2人でした。3人ともそれぞれ自分の部屋があり、バスルーム、キッチンとダイニングを共有するという形態でした。バスルームにはバスタブが、キッチンにはオーブンがあり設備は充実しています。インターネットについては、ルームメイトと相談し、自分たちで契約します。洗濯機は地下にあり、留学生みんな使います。

通学時間はバスで（1回乗り換え有）20分くらいです。町の中心部へ行くには（乗り換え無）20分ほどかかります。

食事は、平日のお昼は食堂で食べることができます。それ以外は、自炊か外食になります。

⑨ 長期休暇の過ごし方

休暇中はとにかく旅行に行きました。ドイツはもちろんヨーロッパ中を入国審査なしで訪れることができます。私は基本的にドイツ国内をメインにして旅行に行きました。ミュンヘンのオクトーバーフェストやいろいろな町のクリスマスマーケットなどに行きました。

⑩ 留学期間中の就職活動の取り組み

特に何もしませんでした。リクナビ、マイナビ等には登録しましたが、ほとんど見ていません。帰国時には、ものすごい量のお知らせメールが溜まっていました。

II. 留学の感想

① 留学中で楽しかったこと、最も思い出に残っていること

ドイツ滞在中、たくさん芸術にふれることができました。ザールランドの学生であれば、州立劇場のコンサート、オペラ、バレエを無料で見る事ができます。私の場合、月1回はコンサートに足を運んでいました。また、旅先でも美術館、博物館を訪れました。ドイツの学生証や滞在許可証を見せると、ヨーロッパの美術館、博物館やコンサートの入場料が無料や割引になるので是非訪れてみてください。

② 留学中でつらかったこと、最も苦労したこと

やはり言葉が通じないのが一番苦労しました。難しすぎてドイツ語が嫌になった時期もありました。ですが、ドイツの生活や社会に馴染むため、文化を学ぶためにはドイツ語が欠かせません。ドイツでの生活をもっと良いものにするためだと思い勉強を続けました。個人的にドイツで英語とドイツ語の両方を同時に勉強することはおすすめしません。混乱するし、両方とも中途半端になってしまう可能性が高いです。

寒さもつらかったことの1つです。ドイツはとにかく寒いです。日本では滅多に風邪を引かなかったのですが、ドイツでは何度も風邪をひきました。寒くなったらすぐにドイツの分厚い上着を購入し、防寒対策をしっかりしましょう。

③ 文化・習慣の違いなどで驚いたこと

ヨーロッパでは、基本的に日曜日にお店は開いていません。レストランなど一部のお店は開いていますが、スーパーやショッピングモールは閉まります。おかげで毎週日曜は家で休む事に集中できます。

ドイツにもスキンシップの文化があります。初対面では、お互いに名前を言って握手、親しくなると会った時と別れはハグ、といった感じです。初めは少し戸惑いますが、すぐに慣れます。

ドイツ人は意外と話好きの人が多いです。知らない人が結構話しかけてくれたりします。

バスの運転手さんとお客さんが話しているのもよく見かける光景です。Hallo! Danke! Bitte!といったフレーズはとにかくよく使われず。

日本とドイツは似ていると言われることがありますが、文化・習慣の違いを感じることは少なくありませんでした。

Ⅲ. 留学希望者へのアドバイス

① 留学先大学の良かった点、悪かった点

良かった点

- ・ ザールランドには親切な人が多い
- ・ 日本語を学んでいる学生が多いので友達を作りやすい
- ・ 学生証の提示で、州内の公共交通機関が乗り放題

悪かった点

- ・ 食堂のご飯があまり美味しくない

② 日本から持って行って、特に役に立ったもの（パソコン持参の有無も含めて）

だいたい現地調達が可能です。ザールブリュッケンは州都なだけあってお店も揃っています。アジアショップもあるので、高いですが日本の食品もいくつか売っています。

- ・ パソコン：授業のレジュメを見たり、レポートを書いたりするのに使います。それ以外にも、メールや調べ物の際にとっても便利です。
- ・ VISA デビットカード：クレジットカードと同じようなものですが、デビットカードなので支払い手続き後すぐに引き落とされます。このカードの長所は、いつでも海外の ATM で日本の口座にある現金を現地通貨で引き出すことができることです。
- ・ ガイドブック：日本の写真がたくさんガイドブックと違い、海外のガイドブックは文字が多い気がします。日本のものを持っていくことをお勧めします。
- ・ 日本のお茶：ドイツに日本のお茶はありません。お茶が好きな人は絶対持っていくべきです。
- ・ 薬：急に体調が悪くなった時に風邪薬や痛み止めがあると役に立ちます。

ちなみに、スマートフォンに関してはドイツでプリペイド式のものを購入する事になると思います。私は日本で使っていたスマートフォンは一時利用停止にして、ドイツでは家や大学など Wi-Fi のあるところでのみ利用していました。

③ 語学力の向上等、留学の成果、留学前と後で変わったこと

語学力に関して帰国後よく聞かれますが、正直に言うとペラペラにはなりません。わからないことはまだまだたくさんあります。ですが、この留学のおかげで海外に新しい故郷ができたような気がします。ザールブリュッケンには絶対にまた訪れようと思ってい

ます。そのときのためにもドイツ語の勉強を続けます。

④ これから留学をしようと思っている後輩へのアドバイス

少しでも行ってみたいという気持ちがあるのなら、何か行動を起こすべきです。まず情報収集から始めましょう。そして留学を決心したのなら、全力で勉強に取り組みましょう。留学は準備が一番大事だと思います。行く前にどれだけ勉強するかにかかっています。みなさんの留学がうまくいくことを願っています。ザールランド大学への留学に関してわからないことや気になることがあれば、どうぞ私に連絡してください。

IV. 将来の目標

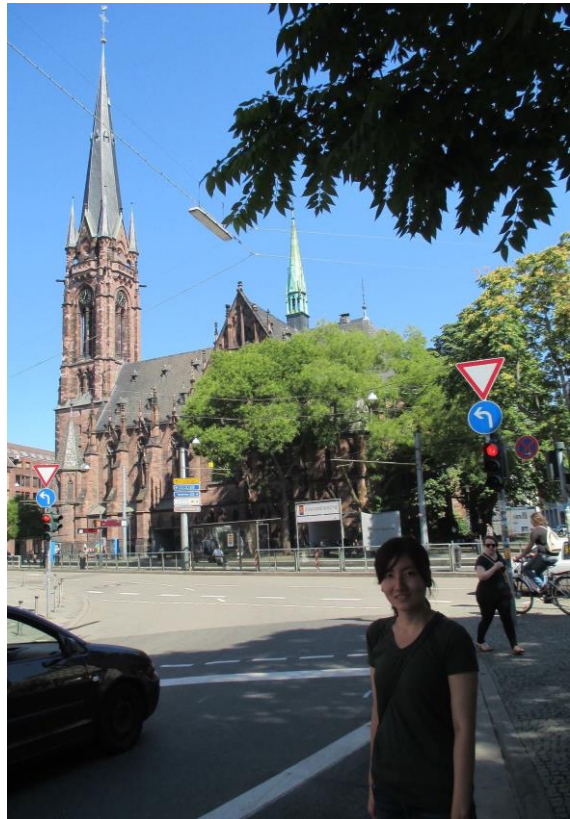
① 今後の進路、将来の目標・夢

もうすぐ就職活動が始まりますが、卒業後の進路についてはまだ考え中です。日本国内での就職を考えていますが、また機会があれば海外で暮らしてみたいと思っています。

V. 写真



ザールランド大学正門



町の中心にあるヨハネス教会



ザールブリュッケンのクリスマスマーケット

クリスマスシーズンにヨーロッパで行われているイベントで、広場や通りにたくさんの屋台が並びます。ドイツでは、マグカップに入った温かいワイン（Glühwein）を飲むのが定番です。各町でマグカップのデザインが違うので記念に集めるのも楽しいと思います。